

「戦国の世から天下統一へ」

高松市立木太小学校 教諭 高木 翔太

1 実施学年 第6学年

2 学習のねらいと博物館の活用との連携について

(1) ねらい

本単元は、第6学年内容(2)歴史的分野における「戦国の世から天下統一へ」を取り扱う。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(カ) キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解すること。

(ク) 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

本実践では、織田信長と豊臣秀吉の働きを比べたり結び付けたりして調べ、年表にまとめる中で、織田信長と豊臣秀吉の働きによって群雄割拠の状態から戦国の世が統一されたことを理解できるようにする。さらに、豊臣秀吉の死後、多くの大名を味方につけ勢力を高めていった徳川家康の働きについても調べを行い、天下統一への働きが大きかったのは誰かについて話し合う中で、戦国の世が統一され江戸幕府による支配体制が整えられていったことを捉えられるようにしたい。

また、本実践で取り扱う織田信長・豊臣秀吉・徳川家康は、瀬戸内海に浮かぶ塩飽諸島と深いつながりのある人物でもある。「塩飽水軍」とも呼ばれる塩飽諸島に住む人々は、塩飽諸島周辺の海の難所と呼ばれる複雑な地形や潮目を読む力を持っていた。香川県立ミュージアム所蔵の「信長・秀吉・家康と讃岐」からは、天下人にとってその力が重要であったことがうかがえる。現在、本島ではそういった「塩飽水軍」たちの活躍が分かる施設や、古くから残る街並みを生かしたまちづくりを行っており多くの観光客が訪れている。天下人の働きをつかんだ単元の終末時に、本資料を活用した授業をすることで、天下人たちが香川県ともゆかりのある存在であったことに加え、歴史を受け継いで活用して町づくりをしている地域が存在することを知り、歴史を学ぶ意味にまで迫ることができるだろう。

(2) 活用した資料

・「信長・秀吉・家康と讃岐」、香川県白地図、瀬戸内海沿岸白地図(香川県立ミュージアム貸出教材)

3 単元計画(全9時間)

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| 【第一次】「長篠合戦図屏風」をもとに話し合い、学習問題をつくる | ・・・2時間 |
| 【第二次】織田・豊臣・徳川がどのようなことを行ったかを調べ、年表にまとめる | ・・・4時間 |
| 【第三次】天下統一に向けて働きが大きかったのは誰かを話し合う | ・・・2時間 |
| 【第四次】織田・豊臣・徳川と香川県とのつながりを調べ、話し合う | ・・・1時間 |

4 本時の学習指導案

(1)目標 織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が行ってきたことと、書状に書かれた内容とを関連付けて考え、塩飽諸島が3人の戦国大名にとって重要な場所であったことを理解できるようにする。

(2)学習指導過程

<p>1. これまでの学習を振り返り、本時のめあてを立てる。</p>	<p>織田信長は楽市楽座を行って商業や工業をさかんにしたり、キリスト教を保護したりしたね。</p> <p>豊臣秀吉は検地と刀狩を行って身分を区分し、世の中を支配する仕組みを整えたね。</p> <p>徳川家康は関ヶ原の戦いに勝利して天下統一を果たし、大名を支配する仕組みを整えたよ。</p>	<p>○戦国の世から天下統一への流れと登場した人物について振り返り、本時の活動の際の手掛かりとする。</p>
<p>2. 書状を出した人物を特定する。</p>	<p>香川の塩飽諸島は、3人と関係のある場所なんだね。</p>	<p>○塩飽諸島の場所を地図で提示し、瀬戸内海に面した島であることをおさえ、本時の課題へつなげる。</p>
<p>(1)原寸大資料をもとに予想する。</p>	<p>⑤ 3枚の書状は、それぞれだれが出した書状なのかを考えよう。</p>	<p>○まず、原寸大資料をもとにして予想を立て、何を調べれば人物を特定できるか見通しを立てる。</p>
<p>(2)予想したことをもとに、諸資料で調べを行う。</p>	<p>この朱印を見たことがあるよ。教科書で調べてみよう。</p> <p>豊後は昔の地名だね。地図帳で場所を調べてみよう。</p> <p>検地のことが書かれてあるね。秀吉か家康のどちらかな。</p>	<p>○調べが進んできたタイミングで現代語訳資料を配布し、書状を出した人物を、根拠をもって特定できるようにする。</p>
<p>(3)現代語訳資料をもとに再度調べ、検証を行う。</p>	<p>この朱印は「天下布武」の印で、信長が書状につかっていたものだそうだよ。</p> <p>豊後は今の大分県のあたりだそうだよ。九州とつながりがあるのは誰かな。</p> <p>慶長5年の書状みたいだね。慶長5年は西暦でいうと1600年だそうだよ。</p>	<p>○塩飽諸島が重要視された理由を解説する。</p>
<p>(4)現代語訳資料をもとに再度調べ、検証を行う。</p>	<p>堺港という言葉もあるね。信長は商業都市である堺を支配したから、この書状を出したのは信長だね。</p> <p>秀吉は九州の大名の力をおさえて天下統一をなすとげたから、この書状を出したのは秀吉だね。</p> <p>1600年は関ヶ原の戦いがあった年だね。関ヶ原の戦いということは、この書状を出したのは家康だね。</p>	<p>⑥ 信長、秀吉、家康の行ったことと書状の内容とを関連付けて考え、それぞれの書状を出した人物を特定しようとしている。</p>
<p>3. 本時のまとめを行う。</p>	<p>1枚目の書状は信長、2枚目の書状は秀吉、3枚目の書状は家康の書状である。</p>	
<p>4. 学習を振り返る。</p>	<p>香川の本島(塩飽諸島)の周辺では、海の難所とよばれるほどの激しい潮の流れが発生していたそうだよ。そんな複雑な地形や潮目を読む力があつた塩飽諸島の塩飽水軍の力は、天下人たちにとって重要だったんだね。</p>	
<p>4. 学習を振り返る。</p>	<p>江戸時代になると、塩飽諸島と幕府との関係はどのようになっていくのかな。</p> <p>実際に塩飽諸島に行ってみたいな。立派な建物があるそうだから見てみたい。</p> <p>香川県に天下人たちとつながりのある場所があるのは驚きだったよ。</p>	